

文教福祉常任委員会記録

平成31年2月21日(木)午前11時00分～午前11時55分(9階909会議室)

○出席委員(9名)

委員長	丹治 誠	副委員長	二階堂武文
委員	沢井 和宏	委員	小熊 省三
委員	根本 雅昭	委員	梅津 政則
委員	高木 克尚	委員	尾形 武
委員	真田 広志		

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○案件

所管事務調査 「小学校における ICT を活用した学習活動の充実に関する調査」

- (1) 行政視察の意見開陳について
- (2) その他

午前11時00分 開 議

(丹治 誠委員長) それでは、ただいまから文教福祉常任委員会を開きます。

本日の議題は、お手元に配付の次第のとおりです。

初めに、行政視察の意見開陳についてを議題といたします。

1月30日から2月1日の3日間にわたり、東京都荒川区、千葉県柏市、茨城県つくば市、岐阜県岐阜市へ行ってまいりました。行政視察につきまして、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

それでは、意見ある方お述べください。

(沢井和宏委員) 全体通して感じたのですけれども、なかなか導入で進みぐあいの差があるなどというのは感じたのですけれども、福島市は割かしやっぱりおこなっている部分であるので、特に感じたのは電子黒板、その中でも値段は電子黒板よりもオーバーヘッドプロジェクターかな、あれで映せるやつが、あれが半額ぐらいで、つくば市でしたっけか、全教室に……

(丹治 誠委員長) 普通にプロジェクターで映すやつですよ。

(沢井和宏委員) ええ。あれだと安価だということで、思ったのはすぐ授業に使えるような、そういう機材のほうがやっぱり有効なのではないかななんて思いました。特に現場今考えると、教科書の1ページを例えばここをみんなで見たいというときにも、それを拡大するのに、今現場でよくやっているのは、拡大コピー機を使って5分、10分ぐらいかけて大きくした白黒のやつを広げて、こうやって説明したりするのです。だから、すぐ授業に使えるような、そういうものがあればかなり視覚的には違うのかな。テレビなんかでも今大体フリップ使ったりしてべらっとめくったりして、ああいう提示の仕方が多くなっている中では、やっぱり今学校現場の提示の仕方というのはかなりおこなわれていると思うので、そういうすぐ使えるようなものであれば福島市としてもすごく役立つのかな、即効性があるような気がしました。

以上です。

(丹治 誠委員長) 確かにそうですよね。使えないと意味ないし、子供の理解度もそれによって変わる、あともう一つ教員の負担もきっとそれで減る感じですかね。ありがとうございます。

(根本雅昭委員) 今沢井委員おっしゃったように、使えるときに何か使えるものということは非常に感じて、福島市のようにやっぱりおこなわれているというのは印象で、おこなえばおこなわれるほど目的と手段がだんだん逆になってきてしまうのではないかなという危機感を持ってきたところです。例えば国でもプログラミング教育も決定していますけれども、プログラミングが目的で、何のためにといるところがだんだんなくなってくるので、あとどこは言いませんけれども、授業でも、別にICTが、つくば市さんですか、なくてもほかの手段があればそれはそれでいいです。トラブルが起きたらやっぱり諦めますということは印象に残って、より視覚的に児童生徒さんに見やすくするための一つの手段ですので、それにこだわる必要はないのかな。ただ、その一方できっとICTのほうが視覚的にも見やすいですし、理解度も進むのかなということで、それが使える環境というのは必要ではないかということを感じてきた次第です。

あと、つくば市ですか、スクラッチとか、マイクロビットとか、マイクラフト、あとラズベリーパイとか、いろいろとさまざまなプログラミング環境とかマイコンの環境がありましたけれども、1つに縛られることなく、その目的を達成するためにいろいろ選べるという環境が整っていてうらやましいなというふうに思って、こういう環境を構築できれば本当は、それぞれそんなに高いものでもないですし、せいぜい二、三千円とか、場合によっては無料で使える環境ですので、そのためにはやっぱり専門家のICT支援員のような方々が、それぞれ企業さんなりICTを推進する支援員さんなりが全ての学校においてアドバイスされていたようですので、そういう方々のアドバイスを受けながら、また指導案なんかも共通化して誰でも、それがICTのいいところだと思いますので、そういうところが大事になってくるのかなというふうに感じました。

ほかにもあるのですけれども、また後で。とりあえずは。

(丹治 誠委員長) ありがとうございます。確かに目的、手段は大事なことですよね。ICTなくてもプログラミング的思考はできるわけであって、あったほうがもちろんいいですけども、それも大事な視点ですよね。支援員の活用もそうですし、わかりました。

(小熊省三委員) 根本委員と似たような発言になるかもしれないですけども、プログラミングを全部の単元でやるというのは無理だということがあったので、やっぱりその学年で1単位だとか、どこをやるかというあたりを絞ってというところがあったし、それからプログラミング教育というか、その前提として、パソコンがなくてもやっていきながら、あわせてやっていくというあたりもやっぱり十分参考になるのではないかなと思いました。

あともう一つ、物が無いとというところがあるので、予算的な問題があると思うのです。だから、そういう意味で今の福島の、これは皆さんとちょっと意見が違うのかもしれないですけども、全体的な教育予算の中で耐震化だとかいろいろところで予算があるので、全体を考えながら進めなければいけないのかなというところもちょっと、どっちを優先するのだというところも、それは今回の視察とはちょっと違う視点になってしまいますけれども、そういうところも順序としてはあるのだろうというところは、一定進めなければいけない部分はあるのだけれども、全面的にという形でない部分もあるのかなというところはちょっと思いました。それは視察とちょっと関係ない、補足の発言ですけども。

(丹治 誠委員長) 財政的な裏付けがないとそろわないし、たしかつくば市では各校60台しかないみたいなの、そんな話もあったりして、その中でうまく活用しながらやっているという話もありましたので、大事な視点ですかね。

(尾形 武委員) 今回の視察は4カ所で、大変進んでいる行政を視察したというだけあって、福島市がおくれているのだから、福島市が平均なのだから、そこら辺はまだ統計とってみなければわからないところなのですけども、文部科学省としてはこういったICT活用を教育に位置づけるのであれば、やっぱり公平、平等を考えるべきだと思うのだよね。行政の財政力によって進んでいる自治体とおくれている自治体があるのはちょっといかなものかなという感じはしたのですけれども、とにかく時代の流れとしてはICTに子供たちがすぐ飛び込みやすいような環境をつくって社会にすぐ役立てるような時代になっていますので、ICT教育は今後とも進むであろうと思っておりますので、やっぱり文部科学省としては財政力によってまちまちではちょっといかなものかなという気はしたのです。ただ、教育委員会の取り組みの意欲の差もありますので、そこら辺は考えていただければと思うわけですが、それが一番感じたなと思っております。

また、もう一つは教員のICT教育に対する理解度とか、生徒に教える力、これがまだまだまちまちということで、ITアドバイザーを活用しているということで、そういったITアドバイザーを教育委員会で雇用して、トラブルとかいろんなわからないときあったら行って指導するような体制を取り込んでいかないと、教員が全て教えるというわけにはなかなか難しいなという感じもしました。

岐阜市なんかは、ペッパーということで、子供たちも興味津々で授業した風景を見まして、進んでいるなという感じはしました。

以上です。

(丹治 誠委員長) 確かにICTの支援員大事だと私も思いました。ICT支援員のほかにICT活用支援アドバイザーだか何だかというのもあって、その人たちもやっているという、そういうこともあるのだなとは思ってきたのですけれども、とにかく今おっしゃったことは本当に大事なことです。

(真田広志委員) 先ほどから話出ていますけれども、当然ハードの整備ということは言うまでもないのだと思います。ただ、例えば同程度のハード整備であっても、支援員だったりとか、教える側の能力、スキルによって相当左右されてくる部分ってあるのだろうなと思っています。そういった意味では、教職員の負担なんかも考えたときに、支援員の拡充というのは当然必要であるかと思えますし、また福島市の整備計画なんか見ると、2023年になってようやく10校に1人の配備という、そういった計画になっているのです。それまで何やっているのだと。教育研修課に常駐をさせて、現場派遣をさせないというような方針みたいなのです。結局何か困ったことがあったら教育研修課のほうに相談に来てくださいと。それでこれからのICT教育賄えるのかというような感じがしています。まずは、支援員の増、増強という部分に力を入れて、要望もしていく必要性ってあるのかなというのを切に感じました。ハードの整備は言うまでもないかと思えます。皆さん見てきて共通の認識であるので、あえてここで言うまでもないとは思っていますので、まずはその点です。

(丹治 誠委員長) ありがとうございます。今2023年で10校に1人という話、これ後で話ししようかと思ったのですけれども、今回の3月の当初予算の中に出てきていましたよね、予算が。当局の説明、去年でしたっけ、受けて、それに対するどこまでどういうふうな内容までかわからないけれども、当初予算として上がってきて、もうちょっとそこで詳しい内容も出てくるのかなという。ただし、その話というのは所管事務調査ではないので、今回の提言にのせられなくなってしまいます。待機児童のときと一緒に。なものだから、例えば3月の教育委員会の分科会終わったところで、きょうフューチャービジョンでしたっけ、について話あったけれども、それについて所管事務調査に切りかえて、ご意見ある人は意見述べてくださいみたいな感じで意見もらったほうがいいのかななんて思ったりは実はしていて、もう少し詳しくわかるのではないかな、そうなれば。いずれにせよこれではなかなか追いつかない内容だなと私も思います。

(梅津政則委員) 関連してなのですが、私も真田委員と同じで、支援員と、さっきアドバイザーの話もありましたけれども、そのプロと、あとは現場のフォローとかというのはやっぱり一番重要かなと思って、整備計画に対してはハードだけ先行して、結局沢井委員がよく言うように宝の持ち腐れになるような傾向がちょっと危惧されるかななんて思っていて、荒川の校長先生とかもよかったということの中で、ハードもさることながら、やっぱり人の配置をしてもらったのが一番だったという、現場の声がそうだったので、荒川では教諭が2人でやっていたので、支援員のあり方、学校

の先生のいろんなローテーションとかもあるのかもしれないですけども、やっぱりその人というのは重要なと。ただ、岐阜みたいに突出した先生だと思って見ていましたけれども、ペッパーのあれは特殊だというふうに思っていて、逆にほかの視察したところで聞いてきたような、日常と言うとおかしいですけども、例えば見せやすいような器具として使う利用の部分と、あとプログラミングというようなイメージで取り組むやつというのはしっかりビジョンをつくらないとなかなか宝の持ち腐れかなという意味で、教員の研修に頼るのか、外にアドバイザー的にやるのかという、そこら辺もスタート時点から明確にしておかないと空中分解になってしまうかなと。本当に学校の中で先生で、支援員も含めてというのですか、なのか、それともプロポーザルみたいなやつで、柏ですか、プロポーザルでアドバイザーを募集したというのもあったので、そこら辺の進む方向をはっきりさせないといけないかなと思いました。繰り返しになってしまいますけれども、つくばも教育委員会の体制として教育研究所とかというところで独立して、研修センターではなくて、現場のICTの取り組みのやつとかも特化しているに近いチームがいたりとかしたので、そういう体制づくりというビジョンを明確にしないとうまくないかなというふうには全体を通して思ってきました。

(丹治 誠委員長) 確かに体制大事ですよ、最初の。あれつくばでしたっけ、どうしても現場の教員のほうでうまくできない場合は、遠隔で教育総合研究所の人が指導するとか、そんな体制をとっているなんていうところもあったりして、いずれにせよ取っかかりの方向性きちんと決めないと、まさしくそうですね。ありがとうございます。

(高木克尚委員) 後ろ向きの意見に聞こえるかもしれませんが、我々の年代ですといきなり便利な器具を扱ったがゆえに、日本人として本来持っているべき筆記力とか読解力、これが非常に我々の年代はおろそかになった傾向にあります。小学生の時代から我々大人が今私が言ったような環境に置かれることなく、日本の言語、文化、伝統、筆記力、世界の言語の中で珍しい丁寧語を使いこなしたり、そういう日本人の感性をやっぱりどこかに置き忘れては困るのかなと。それを決して忘れないでこのICTの活用というものを組み込まなければならないのかなと。今回視察でそれを感じたのは荒川区だけでした。便利さ、将来性、そういう意味で技術的なこと、さまざまな専門知識を覚えさせることはいいのですが、より以上、冒頭申し上げましたように、日本語の魅力とか筆記力、読解力、こういった文化もきちんとあわせてセットでこのICT教育を進めないと、どこかで日本人が別な方向に向かいそうで不安なところもありますので、ぜひICTの推進とセットで国語力はおろそかにしない旨を訴えたいなど、こんな思いは今回してまいりました。済みません、後ろ向きで。

(丹治 誠委員長) 確かに荒川で言っていました、その話。計算と読み書きと何だかを、これは基本だから、これは絶対外せない。図書館と連携して調べ物したりとかってたしか。それで、図書館も視察した。

(高木克尚委員) 限られたカリキュラムの中でやろうかと思うと、どこか犠牲にしていくなのかなという不安が非常につきまとうので。

(丹治 誠委員長) すごく大事なことです。

(尾形 武委員) 確かに今高木委員がおっしゃったように、国語力とか読解力が全ての教科の基礎になるものだというのだよね。国語ができないと全てが理解、質問の内容も理解できないし、答えも出てこないということで、国語が一番の基礎だとは言っているのです。やっぱり基礎はきちんと学習をしていただいた上でこの便利な機械を使うとか、そうしないと体育の授業荒川区でも見ましたけれども、跳び箱をやって、自分の姿を見て、見ている時間のほうが長いような気がして、もっと体で覚えること、これが基礎なのでないのかなと思うのだけれども、見て、そして直すという時間がなくては、ただ見っ放しで終わってしまっただけ。ただ、便利な機械だから、今後も進むのだろうと思いますけれども、そういった基礎をまずしっかりやらせてもらうというのも大事なことだね。

(丹治 誠委員長) そうですね。それわからないと何のために使ったかわからなくなってしまうし、あくまでもツール、道具ですね、ICTは。

(真田広志委員) 関連するので、ちょっと話それますがけれども、確におっしゃるとおりで、今うちの子供、下の子が小学校1年生。幼稚園のときからいわゆるチャレンジタッチ、昔でいう学研かな、チャレンジタッチのやつなんかはパッドでやらせるのです。パッドで今回何点でしたなんていうのも全部通信で私のところにメールが来るようになって、幼稚園のときからそのような形で、結構それっですごく興味持ってくれるので、すごく取り組んでくれるのです。これはおもしろいな、読み書き、書くこともそうだし、計算することもそうだし。パッドになれさせてしまって、取り組むから、やらせますよね。小学校1年生になって、学校で読み書きを正式に習うのです。ノートに書いてくださいと。下手なのです。やっぱり滑りが違うから、感覚が違うから、必要以上に力が入ってしまって下手なのです。こういうこともあるのだなと。やっぱりその辺もしっかりやらせなければいけないななんていうふう思ったところでした、それをちょっと改めて、若干それるかもしれないけれども、そういった基本の重要性というものを改めて思った部分でした。

(高木克尚委員) 後ろにいるから、申しわけないけれども、今の大学生、英語の筆記体読めない、書けないという時代。

(丹治 誠委員長) やらないですものね。

(根本雅昭委員) 同じ意見で、ICT関係の国家試験で情報処理技術者試験というのがあります。これレベル1から4まで分かれていて、レベル4になると日本語できないと絶対受からないのです。これ昔からICTの試験であっても、一番下のやつはコンピュータ上で受けられるのですけれども、4は筆記試験で、上のほうになると1時間に数千字書けないと、漢字も書けないと、ちょっとのミスでも相当減点されますので、日本語の基本的なしっかりしたところを身につけた上でICTの技術身につけさせようというところをやっている試験がありますので、そういうところやっぱり重要だと思います。

あと、どこの大学とは言いませんけれども、画面上で見て理解して、ああ、わかった、わかったと

思っている、実際やらせると、手書きで例えばコンピュータの中の見盛りの動きを可視化して、鉛筆握って書いてみるなんかいうと、全然できなかつたりしますので、やっぱりICTが出入り口で、真田委員おっしゃるように興味を持ってもらったとしても、そこから先は手で書けないと理解したことにはならないと思うのです。そういう基本的なところも同時にしっかりと学校教育の中でこれからも続けていくべきかなと。あくまでも出入り口かなというふうなのは印象です。

（真田広志委員）興味を持たせるにはいいかもしれない。

（根本雅昭委員）はい、あくまでも出入り口。興味を持って突っ走ったら自分で勉強しますので、あとは鉛筆持ってがつつやってもらって、そこに繋げるきっかけかなと思います。

（二階堂武文委員）私は、速記録で参加させていただくような形になります。一応皆さんの質問等も書いていただきまして、私ちょっとやりとりを見させていただいて、それぞれの視察先でのキーワードって何かというのを文字の上から拾ったときに、自分のレベルで気になるのが、つくば市なんかですとやりとりの中で、尾形委員の質問に対して、つくば市のほうで今必修化している年度でやっているカリキュラムはもうその1年で古くなる、というのは子供たちのスキルが物すごい勢いで上がっているからですという答弁がされました。私つくばでやっぱり一番気になったのは、子供たちのスキルが物すごいスピードで上がっているということ、次の岐阜市でも同じような言葉が出てきています。それは、きっかけづくりというのが何度か繰り返されました。教師が学ぶスピードよりも子供たちが覚えていくスピードのほうがはるかに進んでいくと思うのでというような話がありました。だから、教師の役割として何でもかんでも教師がという発想ではなくて、きっかけをつくってあげれば、子供たちは教師以上のスピードでどんどん、どんどん学んでいくもの、世界なのだということをつくば市なり岐阜市の教師の皆さんが同じように答えられた。

そういった中で、実は2番目に訪れた柏市の中で、活用の促進というところで、約3割の教師が日常的に活用してもらっていない、ICT活用を向上していこうといってもさまざまな業務があり、準備がまた新たな負担になってくるというような言葉がありました。教師が全て抱え込もうと思うと、やはりなかなか進めないというか、足かせになってしまう。もう少しその辺を割り切って、ICT教育については教師はきっかけをつくと。子供たちは結構なスピードでどんどん、どんどん学んでいくと。その辺のさじかげんみたいな部分というのは意外とICT教育の一つのポイントとしてあるのではないかなと。何から何までも教師みたいな発想になると、どうしても踏み出せなくなってしまうみたいなところが出てくるのかなという気が、これは文字から読んでいて直感しました。

もう一点、そういった中で、先ほど高木委員のお話もありましたが、荒川が何で高木委員もそうお感じになったのかなというのを改めて考えますと、荒川というのは荒川スタイルというワードが出てきますけれども、荒川の持っている教育資源、例えば学校図書館であったり、司書体制の充実度であったり、それをICT教育にうまく取り込んで、独自のICT教育まで昇華し切れているというところで、違和感なく、荒川でのICT教育は安心して見ていられるみたいなところでのお話だったのか

など改めてちょっと思いました。そういった意味では、やはり福島市の持っているよさというか、強みというか、教育資源あるかどうかということも含めてあれなのですが、そういった持ち味なんかもうまく加味しながらやはりICT教育をやっていくと意外と地に足のついた方向性をたどっていけるのかなという気がちょっといたしました。

最後のまとめになります。そういったことを振り返って言えば、委員長先ほどお話をされましたが、去年の11月22日に教育委員会のほうからこれからのビジョンについてご説明をいただきました。それがふくしまICT教育フューチャービジョンということになって、皆さんのファイルに入っているかと思いますが、実は福島はこれからです。私ども視察で見てきたのは、福島の5年先とか8年先とか10年先ぐらいの状況を視察で見てきたことになろうかと思えます。そういった意味では、見てきたことをこのフューチャービジョンに照らし合わせたときに、現実的にこのフューチャービジョンが、現場で見てきた私どもにとってみればどこがこのビジョンがいいのか、また足りなくて現実味が乏しいのか、そういったものをICT教育フューチャービジョンに私どもが見て聞いてきたことを照合したときに、照らし合わせたときに多分すごく具体的な、福島市のICT教育にとって役立つような提言に落とし込んでいけるのかなという気がちょっといたしまして、これは現場に行っておらず、文字だけで追っかけた私だから、足りない部分もあるでしょうし、言えることもあったのかなとちょっと思っていて発言をさせていただきました。

(丹治 誠委員長) フューチャービジョン、先ほども言いましたけれども、当初予算で出てくるので、しっかりそこを照合しながら、そこでまた皆さんのご意見もいただければなんて思っておりますので、よろしくお願ひします。ありがとうございます。行ってきたかのような。

(真田広志委員) フューチャービジョンの話言わせてもらおうと、全ての項目において全てが余りにもおこなっていますよね。その一言に尽きるのではないかなと思っています。国が補助を出すとはいえある程度限られた予算なので、どこに重点を置いて拡充していくかというところの見きわめが多分重要なのだと思っていて、ハードの整備って本当に当然言うまでもなく必要なだけけれども、ハードの整備の中で何を重点に配備していくべきなのかということもしっかり見きわめていかなければいけないでしょうし、支援員の話もそうです。それからあと、特に感じたのが情報モラルの問題なんかも本当に重要なことなのだろうなと。ああいう先進地では当然そういったことのモラル教育なんかもしっかりとやってくるのは言うまでもなくて、そういったことの指導員に対する指導なんかもしっかりと同時並行的にやっっていかなければいけないことなのだと思うのだけれども、福島市のフューチャービジョンではそこまでまだ考えが及んでいないようなので、その辺も並行的にやっぱり推し進めていくようにしっかりと提言していく必要があるのではないかなというふうな気がしています。

(梅津政則委員) 今の話は、福島市の教育委員会の教育の、さっきビジョンという言葉出しましたけれども、まさにその教育方針のところと結びつけないといけませんよということに尽きると思うのです。さっき副委員長のほうからの荒川の図書館、行かないのによく気がついたなと思いましたが

ども、図書室での授業も見させてもらったのです。そのときにタブレット上に入っている検索するデータと、それとまるっきり同じものというのが辞書としてそこにそろってしまっていて、紙で、辞書で調べるのか、タブレットで調べるのかというのを交互にいろいろ取り組んでいて、それって先ほどおっしゃった図書館の司書とか、学校図書館を充実させるという基本ベースのところののっけてICTというのがあったので、教育委員会の、福島のほうも特色というか、ただツールとして使うだけではなくて、それを結びつけなくてはいけないなというのは私も思いました。

さっきペッパーのやつは特殊だと申しましたけれども、でもあれは物として特殊なものがあるって、ツールのソフトもアプリケーションとかも特殊は特殊だと思いましたがけれども、ペッパーのやるやつというのは低学年のときからいろんなことをやって、地域のやつとか、いろんなことをやって、最終的にいろんな段階を踏んで、でき上がったものを下にプレゼンするとか、地域にプレゼンするとかという一連の流れができ上がっていたというのもあって、ただツールで場面、場面で使うのではなくて、根幹的なもの、先ほど読み書きが根幹でという話と、あと福島市としての教育としてどういうものを筋論としてあるところに絡めるのかというのを明確にした上で進めないで宝の持ち腐れになってしまうと思いました。

それにしてもやっぱり支援体制というのは欠かせないのだろうなというふうに、繰り返しですけれども、思いました。

別件でもう一つだけいいですか。私一貫して先生たちの負担軽減の話はずっと聞いてきたのですけれども、全くありませんでした。校務の支援システムもそうですけれども、うまく活用しているという事例は見受けられなかったもので、やっぱりそこって教職員さんの負担軽減には結構、ICT教育とちょっと別ですけれども、でも学習指導要領といますか、フューチャービジョンの中には入っていませんでしたけれども……入っているか。支援システムの配置とかが100%になっていますという割には、ソフト等充実を図るといふふうになっているのですけれども、全然現場の話の話を聞くとも全く生かしていないような話もあるので、やはりそこら辺のところは教育委員会としてICTを活用するという意識をもうちょっと高めないと根幹が底上げしないのではないかなというふうな思いもあるので、子供たちの部分とあわせて先生たちの持っている校務支援システムの活用とか改良とかというのをぜひもっと進めなくてはいけないのではないかな。先進事例は見受けられませんでしたけれども、だからこそ福島で先進的に取り組むようなこともやってもいいのではないかと。いいのではないかと。必要だというふうに思いました。

(丹治 誠委員長) 校務支援システムは、確かにおっしゃるとおりそんなに、どこだったか忘れてけれども、一応あるといえばあるけれども、各学校でいろいろカスタマイズ化されてしまって、転勤したときに使えないとか、そんなふうな状態になっているから、それ全部統一しないとだめだよなどどこかでたしか言っていた記憶があるのですけれども、福島もそのような感じなのですかね。大事なことですよね。使えないと意味ない。

(梅津政則委員) 福島は多分カスタマイズすらされていないのではないかと。

(沢井和宏委員) 荒川の学校教育ビジョン今ちらちらと見ていたのですけれども、福島教育計画というか、教育委員会が出している総合教育の中のビジョン見ても、やっぱり福島のほうが内容的に全人格を育てるといふ、そういう大きな視点というのがちょっと足りないかななんて今感じました。

あと、フューチャービジョンの中で下のほうにモデル校とか指定校とかあるのですけれども、学校教育の悪いところは、モデル校なんか指定すると、そこでしゃかりきに研究するのだけれども、それがほかの学校で使えないような、そういう研究をしているのです。だから、今までずっと研究したのだけれども、その研究がほかの学校で役立つかと、やっぱり今のカスタマイズと同じくどこでも使えるような、そういう教材の開発をして、当たり前に使っている、そういう授業を展開していかないとならないのだからと思っているのです。特にプログラミング教育については、それぞれの学校で独自に開発するなんていうのは、その段階にもまだまだいっていないので、とりあえず私は総合教育センターの中でこの学年のどこの単元のこれにはプログラミングを使いますよと、そういうソフトを開発してもらって、それを各学校で実践してもらおうほうがより早いプログラミング教育の、まだ本当にゼロ以下の部分でスタートするのだから、まずは全市一斉で同じ教材でできるような、そういう体制を組んでもらったほうがより効果的なのかななんて思うのです。

あともう一つ、これこの前現場から上がった声なのですけれども、デジタル教科書配備されているところもあるのですけれども、年度途中から配備されると、契約が1年間なのだそうです。年度途中でいくと、1年間だから、次の年度の途中で切れてしまうというような、そういう配備上のミスもあるみたいで、私も詳しくはわからないのですけれども、できるなら年度当初から契約を1年間というなら年度4月からの契約しないとなかなか使いづらいというような話も聞きました。

以上です。

(根本雅昭委員) 校務の学校の先生の負担という意味で、うちの会派でこの間姫路市にAIの研修といますか、視察で行ってきたのですけれども、その中で、前の議会で私も質問したのですが、RPAという技術がありまして、これはつくば市が全国に先駆けて入れているもので、ロボティック・プロセス・オートメーションの略なのですけれども、人間がマウス操作とかキーボードで行う操作を全部自動化できるというシステムで、こういうものを検討、学校で入れている事例って聞いたことありませんので、こういうのもやっていると相当先生方軽減されるのではないかなというふうに思いますので、ぜひこういう要望も入れていただけたらなというふうに思います。

あともう一つは、先ほど真田委員おっしゃった情報モラル、これ本当にそのとおりで、福島市だと学校ではルールある程度つくって、だんだん策定している学校ふえてきましたけれども、家庭の状況って全然把握していないようですので、これ荒川区なんかですと家庭でのルールづくりも推進しているということで、こういう家庭のルールなんかも重要だと思いますので、幾ら学校で、授業中勝手にスマホやらないとか、そんなのは当たり前の話で、見ればわかると思いますので、家庭で夜中までず

っと布団の中でやっているとかありますので、これ地域ぐるみでやらないと解決できない問題に今な
ってきていますので、家庭でもルールしっかりつくらないとだめなのだよということを学校からも働
きかけが必要かなというふうに思いました。

あと、ちょっと別件でもう一点気づいたことあったのですけれども、コンテスト、つくば市さんな
んかはプレゼンテーションコンテストで、あと岐阜小学校もペッパー君のプログラミング成果発表会
でシリコンバレーに招待されたということで、こういうものがあって実績上げていくと、児童生徒さ
んたちもやる気が起きるのかなと思いました。

あと、視察の後でちょっとインターネット調べましたら、柏市でも2月25日にかしわプログラミン
グコンテストというのが開催予定されているということで、こういうものが地域ぐるみでどんど
んふえてきているようですので、こういったコンテスト形式というのもいいかなというふうに思
います。

(丹治 誠委員長) 子供のやる気というか。

(根本雅昭委員) そうですね。そういうのを見ていると、つくば市さんなんかも先生方も刺激を受け
るようですので。

もう一個いいですか。あと、先ほど体験活動という意味で、荒川区さんで福島とも体験活動で交流
したいという呼びかけがあったり、あとつくば市さんでもテレビ会議で福島市とつながりたいとい
うようなご意見があったと思いますので、つくば市さんなんかはテレビ会議でということでしたけれど
も、テレビでやっているうちに実際行ってみたいというふうになるとと思いますので、こういったI C
Tをきっかけに実際に交流するようなところへつなげられるような交流のきっかけにもなったらいい
かなと思いました。

(真田広志委員) 1点だけちょっと気づいたところがあって、岐阜市に行ったときに、最先端のハー
ド整備というのは当然驚いたところなのだけれども、それ以上にオープンスペースで環境の整備、オ
ープンスペースの中に、入ってすぐにオープンスペースがあって、そこにパソコンが並べられていて、
当然ペッパー君もあるのだけれども、ああいう環境だからこそ、例えば上からも目が、どこからも目
が届くところだからこそ、休み時間いつでも鍵の貸し出し、そしていつでも使っていていいですよ
という環境が多分つくれるのだと思うのです。普通の学校だとやはりある程度閉鎖的な空間の中で操作と
かしていかなければいけなくなってくるので、当然ある程度の監視ではないけれども、目が行き届い
ている状態でないと貸し出せないということもあって、そうすると教職員の負担がどんどんふえてい
くわけです。だから、多分休み時間の貸し出しとかがなかなか行うことができないのだろうけれど
も、ああやって入って、しかも職員室もガラス張りですよ。その横がオープンスペースになっていて、
パソコンがざあっと並んでいて、好きなとき使っていていいよと言えば、本当に子供たちいつでも使え
ますよね。使わせている側も、管理者側も何の心配もなく開放できるという、ああいう環境整備
って、ハードの整備以前に、それはそれですばらしいのだけれども、そういったところも行き届いて
いるなと思いました。ぜひ見習ってほしいなというような感想を持ちました。

(丹治 誠委員長) 確かにあそこに行くとやる気になってしまいますよね、ああいう雰囲気だと。

(高木克尚委員) でも、ペッパー君ってああいうほこりっぽいところに置いて大丈夫なの。

(根本雅昭委員) 大丈夫だと思います。雨でびしょびしょとかはちょっとあれですけども。

(梅津政則委員) 話ずれますけれども、基本的な方針は必要ですけども、いろんな支援の話があったときにとりあえず食いついてみるという、そういうがつつ感も必要なのではないかというふうに。

(真田広志委員) とりあえずやってみる的なあれですね。

(丹治 誠委員長) そう思います。かなり損していると思います。

(梅津政則委員) 岐阜でこの資料を見たときにおもしろいなと思った項目が、ちょっとICTから離れてしまうかもしれませんが、エビデンスに基づく教育というのがあったのです。これすごいなというふうに思っていて、方針に沿ってエビデンス、根拠をちゃんと持ちながら進めていくという、そういうことも取り組んでいく、ICTも含めてですけども、必要だろうなというふうに思いました。

(丹治 誠委員長) 非常に大事な視点だし、つくば市では企業とか大学と連携していたけれども、協定はやめたけれども、いまだにつながりがあって、いろいろ提案受けながらやっているという話もたしかあったと思うのです。がつつ感という話がありましたけれども、そういうのもないと、一歩ぬきんでいくというのはなかなか難しくなってしまうでしょう、きっと。

(尾形 武委員) 私も素朴な疑問で、荒川区に行ったとき健康に対する備えとか、ルールづくりって先ほど出ましたけれども、夜9時以降は使わせないとか、いろんなルールがあって、それは子供が成長する過程において、こういった画面ばかり見ると目が寄り目になったり、いろんな障害が、スマホばかり見ていると目が寄り目になるとかってありますので、ぜひ野原で遊ばせることも兼ね備えて最先端の教育をしてもらえればと思います。

(根本雅昭委員) ICTというどうしても機械の整備とか、コンピュータとか、電子黒板とか、そういうふうに行きがちなのですけども、インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー、情報というのは自然界のほうが圧倒的に多いですので、そういうのも含めてのICTだと思いますので、自然教育も含めてぜひ提案できればなというふうに思います。

(丹治 誠委員長) あとよろしいですか。大丈夫ですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) ありがとうございます。たくさんご意見いただきました。本当に大事なことたくさんあったので、しっかりこれ載せていきたいなと。まず、入り口はどうするのだとか、支援員の活用とか、モラルもいろんなもの含めて、読み書き大事だとか、いろいろありましたので、これから骨子をつくるようになりますから、しっかりまとめ上げていければなと思っていますので、よろしくをお願いします。ありがとうございました。

それで、意見開陳については以上にさせていただいて、最後に今後のスケジュールについてちょっ

と日程を調整させていただきたいと思います。

皆さんのお手元にスケジュール案というのをA4、1枚で今配付をしておりますが、きょうは6番目のところ、行政視察の意見開陳ということで、次回以降7、8、9、10までになります。7、8を4月、9、10を5月ぐらいに考えております。

ちょっと先の話で恐縮なのですが、今から全部の日程を、先の日程も決めたいなと思いますが、まず最初の7回目、骨子案のまとめなのですが、4月の9日どうですか、皆さんご都合。4月9日10時、大丈夫ですか。だめであればずらしますけれども。よろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) では、7回目は4月9日火曜日10時から。

8回目は、同じく4月の25日木曜日10時、よろしいですか。大丈夫ですか、皆さん。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) 25日10時。

次、9回目、5月の9日木曜日10時、どうですか。

【「午後にならない」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) では、午後でもいいですよ。午後1時半とかってどうですか。5月9日1時半。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) 最後、10回目ですけれども、5月23日木曜日10時、よろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) それでは、もう一回まとめますと、4月9日火曜日10時、4月25日木曜日10時、5月9日木曜日1時半、5月23日木曜日10時というふうになりましたので、ご承知おきをください。よろしく願いをいたします。

それでは、以上で終わりなのですが、先ほどお話ししました3月の定例会議の分科会の中で学校のICTの予算も出てきていますので、それを受けて何かあればその後すぐ、終わった後に所管事務調査に切りかえて皆さんからご意見をいただくという形にして、提言に載せていきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

以上ですけれども、皆さんから何かございますか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) それでは、以上で文教福祉常任委員会を終了いたします。大変お疲れさまでございました。

午前11時55分 散 会

文教福祉常任委員長 丹 治 誠